

第4回 岡山・鳥取両県知事会議

平成24年5月16日(水)

津山鶴山ホテル

1. 開会

○三宅局長 ただいまから第4回岡山・鳥取両県知事会議を開会いたします。

私は、本日の進行役を務めさせていただきます岡山県総合政策局三宅でございます。よろしくお願いを申し上げます。

まず初めに、岡山県の石井知事からご挨拶を申し上げます。

2. 両県知事挨拶

○石井知事 おはようございます。

平井知事さんにおかれましては、わざわざここ津山の地にお出かけをいただきまして、まことにありがとうございます。このように両県知事会議を美作の地域の中心都市でございます津山市で開催できますこと、本当に嬉しく思っているところでございます。

美作の地域ということでございますが、後ろにちょうどパンフレットも載っておりますが、岡山のこの美作の地は、713年に備前の国から北部6郡が分かれて美作の国ができたこと、このように続日本紀の中に明確に記述があるということでございます。建国の由来が明確にされているのは、本当にわずかの国しかないようでございますけれども、そういった経緯から、来年が美作の国建国1,300年ということでございます。この県北の地津山市を中心といたしまして、さまざまな記念の行事を展開をしていくこととしているところでございます。

この津山市を含む美作地域におきましては、鳥取県との県境にも大変近いわけでございます。津山市は、鳥取県と県境を接しているということもございますけれども、こういう地理的な条件とか地域的な課題等も共有をしているということで、古来から相互に交流が盛んな地域であるということでございまして、さまざまな分野で鳥取県とのつながりを有している、このような土地でございます。

さて、岡山県におきましては、お手元に岡山県の青い資料をお渡しをさせていただいておりますが、第3次おかやま夢づくりプランを策定をいたしまして、東日本大震災の教訓とかあるいは県民の皆さんのニーズを反映しながら、選択と集中によりまして行財政構造改革、これを行う一方で、岡山らしさあふれる先進的な取り組みを行っていかうということで、このプランを策定いたしました。今年度からの5カ年計画ということでございまして、暮らしやすき日本一の岡山県、これを目指していくこととしているところでございます。こういったプランを達成していくためにも、やはり両県とのさらなる連携の強化というものが大変大きな課題であるわけでございまして、両県のこれからの発展のためにも、ますます共通した連携の取り組み、あるいは共通の課題につきまして忌憚のない意見交換を行うことが必要かと

考えております。

この両県のさまざまな課題でございますけれども、先ほど申し上げました美作の国建国1, 300年、平井知事さんの後ろにはまんが王国とっとりということでポスターもあるわけでございますけれども、こういった広域的な観光の推進という課題もございます。また、さまざまな交流をしていくために必要な道路を初めとする基盤整備の促進、さらには有害鳥獣、この有害鳥獣につきましては、県境をまたがって移動するということもございますので、こういった対策もお互いに情報を共有しながら対応を図っていかねばならないと思っております。そして、大きな課題として、東日本大震災が発生いたしましたけれども、広域的な防災対策、これにつきましてもしっかりとなお一層の連携の強化を図っていく必要があるかと思っております。

国の出先機関の原則廃止を受けての広域的な広域連合の組織、こういったものにつきまして、次の中国地方知事会議におきまして議論をすることとしておりますけれども、今日は平井知事さんとその会議に臨む基本的な方向性につきましても意見交換をすることができればと、このように考えているところでございます。

本日の会議が両県の連携、交流の一層の強化につながっていく、両県の発展につながっていく契機となりますことを心より祈念いたしまして、私のご挨拶にかえさせていただく次第でございます。どうか平井知事さん、よろしく願いいたします。

○三宅局長 続きまして、鳥取県平井知事様からご挨拶を頂戴したいと存じます。

○平井知事 石井知事、皆様、おはようございます。

本日は、ここ岡山県北部の美作の国の中心におきまして、津山市におきまして、このようなすばらしい会を設けていただきました。石井知事には、日ごろから中国地方の会長県として大変にお世話になっておりますし、隣県としてもさまざまな協力体制を築いてこられました。石井知事のリーダーシップに本当に敬服をいたしております。是非今日の会議を通じまして、両地域の交流や協力体制がなお一層深まることを期待をいたしております。

また、本日のこの会に当たりまして、三宅局長様初め、岡山県の皆様にも大変にお世話になりました。本当はもっと早くこれが実現しなければならなかったんですが、私が昨年あろうことか疲労骨折で足の骨を折ることがございまして、去年できていたはずのものができなかつた、大変にご迷惑をおかけをいたしております。今でも腰のところに釘が3本入っております、飛行機に乗るたびにプーピー鳴るんじゃないかと冷や冷やしております。もし鳴り始めますと、裸になっても出てこないということになりますので、大変にいつも心配をしているんですが、本当にご迷惑をおかけいたしました。おわびを申し上げて、今日のこの会を感謝を申し上げたいと思います。

石井知事から今お話がございましたように、岡山県は中国地方の中でも一つかな

めとして、このたび美作の国1，300年の式典を前に、大変に鋭意検討をされておられまして、夢づくりにつきましても発信をされておられます。私どもは、一応境を接しておりますけども、同じ建国でも今年「まんが王国とっとり」を建国するという、まだニューフェイスでございます。明日はトリンドル玲奈さんという、ちょっとかわいらしいハーフの女の子がいますけども、明日、実はトットリンドル王女の即位式典を行うことになっておりまして、明日ようやく建国が動き出すということをやっています。まだまだ歴史が浅いかもしれませんが、是非両地域一体となって、文化、観光の面で共同して発信をしていければなあというふうに考えております。

これまでのこの会議の成果として、例えば自然エネルギー、クリーンなエネルギーの推進を図ろうではないか、電気自動車の生産県である岡山県でいらっしゃいますが、ともに協力をして、電気自動車で走りやすい両県域をつくろうということをやりました。これをやりましたところ、今では両県が全国でも冠たる電気自動車の走りやすい県になりまして、急速充電スタンドなどの設立がとみに高まりまして、関係者から本当に評価を受けるようになりました。

今日、いろんな課題についてお話をさせていただきますけれども、一つのポイントとして先ほど石井知事がおっしゃいましたとおり、これから私たち中国ブロックをどうしていこうかという議論が始まろうとしています。この6月1日には、中国地方の知事会議が開催をされますし、経済界との議論も控えているということになりました。岡山県さんが仲介の労をとっていただきまして、これまで関係5県の議論をまとめてくださいました。私は、石井知事と一緒にになりまして、是非、広域連合を設置すべきであると、それを明確に両県から発信をして、5県の流れをつくっていければ大変にありがたいというふうに考えています。

今日も、県境を越えてこの会場に入ってきましたけれども、県境というのは、これは人が決めたものでございます。実は、それは行政的な区域にすぎませんで、実際には経済のこと、それから有害鳥獣の話もありましたけども、イノシシやシカも越えてきますし、そういうようなことで物も人も移動するというわけであります。考えてみれば、もっと広い圏域で物事をやったほうが効率的なことも多くございますし、国のほうの権限移譲を受けて、地方分権を抜本的に推進することも必要だというふうに考えております。そのようなさまざまなテーマが両県の間にあるかというふうに考えておりますが、是非さまざまな共通項、そして共同でやっていくべき事業を今日洗い出しをさせていただきます、石井知事のリーダーシップもいただき、強かに推進をしてまいりたいと思います。

岡山県が石井知事のリーダーシップのもと、ますます発展をされますことを祈念を申し上げ、今日の会が成功裏に終わりますようお願いを申し上げます、私のほうからの御礼にかえさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。

○三宅局長 ありがとうございました。

3. 意見交換

○三宅局長 それでは、早速これより意見交換に入らせていただきたいと思います。今日は、両県の広域観光の推進など、大きく4つの項目を予定いたしております。おおよそ11時40分ごろまでの予定でお話を進めていただけたらと存じます。よろしくお願いを申し上げます。

それでは、これよりの進行につきましては、岡山県石井知事にお願いを申し上げます。

(1) 岡山・鳥取における広域観光の推進

【合同観光プロモーション】

○石井知事 それでは、私のほうから議事進行の役ということでございますので、順次議題に沿って議論を進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。

それでは、意見交換の4つの項目がございますけれども、順次まず最初に、岡山・鳥取における広域観光の推進ということについてであります。この件に関しましては、まず私のほうから発言をさせていただきたいと思っております。

岡山県と鳥取県は、平成21年度に広域観光協議会を設立をしております。今まで両県連携をしながら観光のPRあるいは旅行会社へのプロモーションなどを行ってきておりました。両県をめぐるとツアーも商品化をされるなど、具体的な成果もあらわれてきております。首都圏とかあるいは新幹線、九州にも延びましたけれども、南九州から新たな観光客を誘致をしていくというためにも、こういったさまざまな取り組みを継続的に実施をする必要がございます。合同でプロモーションを実施をいたしたいと思っております。今、プロモーションの具体的な実施場所につきまして、両県事務当局が鋭意検討中でございますので、まとも次第また発表させていただきます。よろしくお願いいたします。

そこで、中国からのインバウンド商品化事業につきましてお願い、またご提案であるわけでございます。岡山空港は上海とのデイリー便、定期路線を持っておりますけれども、このデイリー便の中で、3月25日からは月曜日とそれから木曜日は1日2便ということになりまして、合計週9便が運航しているということでございます。中国からの観光客受け入れには、以前よりも利用しやすくなった、こういう環境となっております。鳥取県さんにおかれましても、チャーター便誘致、春秋航空との間において力を入れておられまして、上海からの観光客誘致、特に力を入れてらっしゃると聞いております。

岡山県と鳥取県は、以前よりインバウンドにつきましても連携して取り組んでいただいております。本年度はお隣の島根県さん、そして広島県さん、隣県とも連携をいたしまして、山陽、山陰、これを結ぶルートのプロモーションを是非実施をしてみたいと思っております。そして、中国上海からの観光客をターゲットにいたしまして、現地のメディアとか人気ブロガーの招請ツアー、さらには上海のショッピ

ングセンターでのPRなどを実施をしてみたいと思います。

そして、中国地方全体での広域的な観光推進協議会がございますけども、主催する中国地方最大の国際観光イベントであります「2012中国地方国際観光ビジネスフォーラム」、これが9月に岡山市で開催をされるところでございます。中国、韓国、台湾の旅行会社約50社を招いて、商談会、交流会、招請ツアーを実施をいたします。開催県共同で実施をするということでございまして、鳥取県さんのご協力も是非よろしくお願いを申し上げたいと思います。

台湾からも、岡山インの米子アウトとか、あるいは米子インの岡山アウトとか、こういったチャーター便も来ておりますし、非常に我が岡山県、蒜山のほうにおきましても、米子空港を利用された外国人の観光客が非常に増えているということでございますので、連携して取り組みたいということでご提案を申し上げたいと思います。

○平井知事 ありがとうございます。

石井知事のご提案いただきましたこと、全面的に賛成をさせていただきたいと思っております。

やはり、外国からのプロモーションが一つは中心だったと思いますが、これを考えますと、圏域として是非共同でやることで、初めていろいろと周遊できることになろうかというふうに思います。鳥取県の地政学的なことを申し上げても、例えば鉄道で入るとすると、岡山からスーパーいなばで鳥取市に、あるいはやくもで米子市に行くと、そういうようなことが鉄道のルートになります。また、高速道路も、後ほど出てくるかと思いますが、いろんなネットワークがありますけれども、岡山県と結ぶルートを通じまして鳥取県に入ってくるということになります。

したがって、岡山と鳥取とをぐるぐる回るルートを例えば岡山空港であるとか、また岡山駅であるとか、そうしたところを起点にして、いろいろと温泉めぐりなど旅の提案が可能だというふうに思います。是非、両県共同したプロモーションにつきまして、事務局だとか関係者も入れて商品造成を具体的にやっていきたいというふうに思います。是非、石井知事のほうからもご指導いただきまして、そういう合同の観光プロモーション、実現していただければと思います。折しも、現在は大手の旅行会社が中国地方にスポットを当てました日本の旬というキャンペーンをされておられます。そういう意味で注目が高まっている時期でもございますので、是非導いていきたいというふうに思います。また、岡山市で行われます国際観光ビジネスフォーラムにつきましても、鳥取県からも積極的に参加をさせていただいて、成功のご協力を申し上げたいというふうに思います。

今、石井知事からもお話がございましたように、空路で入ってくる一つの大きなベースが岡山空港となり始めていると思います。このたびは、中国からの便が週2便増えて週9便だということでお話がございました。鳥取県も、上海便につきまして今鋭意プロモーションをしているところでございますけども、行ってみたい

言われるのは、鳥取県1県だけでないですよと、岡山県などと一緒にになりまして幅広いルートを組みないと、商品が向こうで売れないということになります。ただ片方で、鳥取県は、今国際まんが博をやろうとしていますし、岡山県もさまざまな観光スポットがございます。そういうお話を申し上げますと、インバウンド、向こうからこっちに来るようなチャーターフライト、向こうからこっちにお客さんを連れてくるようなインバウンドを周辺地域と一緒にやってやれないだろうかと、100%インバウンドで持ってきてもいいという、そういうチャーター会社のお話の中にはございます。

そうすると、やはり両県協力して、これから長い目で見て、中国大陸や台湾など、そしてお客さん増えてくると思いますので、是非協力してやっていきたいというふうに思います。全面的に賛成をさせていただきたいと思います。

【ご当地グルメ】

○石井知事 ありがとうございます。

それでは、それに関連して、食の合同観光PRということでご提案いたしたいと思いますが、ご当地グルメの関係です。本県のご当地グルメ、ご承知のとおり昨年姫路の大会におきまして、ご当地のひるぜん焼そば、これがゴールドグランプリです、それからこの津山ではホルモンうどんがシルバーグランプリ、南のほうの日生カキオコが初出場で9位入賞ということでありまして。我々観光連盟として、ご当地グルメ王国岡山という宣言をしたところでございます。

鳥取県さんにも、大変魅力的なB級グルメ、ご当地グルメがあるというふうにお聞きしておりますし、また鳥取におきまして、このたびは6月に大きな中四国の大会が開催されるとお聞きしております。我が岡山県でも、県内のご当地グルメフェスタを11月、備前市のほうで開催をいたしますけども、こういったことを好機に、両県の食を生かした観光客の誘致、この事業を展開をいたしたいということでご提案をいたしたいと思います。平井知事さん、いかがでしょうか。

○平井知事 是非、やはり食べ物は、いろんな方々に対して訴えかける力が本当に強いと思います。ここ津山市も、津山ホルモンうどんの聖地でございますし、お隣にはひるぜん焼そばがございまして、B-1グランプリでもワンツーフイニッシュを飾られたわけでございます。さらに、日生のカキオコといったような新アイテムも急速に今市場を獲得しておられまして、岡山県のやっておられる、そういうグルメの聖地づくりというのは、大変に功を奏しているなあというふうに思います。鳥取県でも、実はそうした岡山県の皆さんとも一緒にになりまして、6月に中国、四国、関西エリアのB-1グランプリ大会といたしますか、それを鳥取市内で開催をすることにいたしております、岡山県からのご参加もあるところでございます。

また、グルメもさまざまなグルメがあると思うんです。例えばバーガーという素材がございまして、ちょっと洋風でございますが、手軽でありますし、バンズと言

われるパンの間に挟むものとか、それからパンのつくり方だとか、そういうこだわりを持ってやりますと非常におもしろい食べ物になるわけでございまして、これもご当地性が強い食べ物として、今進化し始めています。鳥取県で、今全国のバーガーフェスタを大山圏域で開催するようになりました。県外から28団体、県内からも20団体が参加をしまして、県内は予選をして参加制限をかけるぐらいになっております。実は、岡山県側も非常においしいものはたくさんございまして、倉敷バーガーさんとか、それから蒜山高原のジャージーバーガーとか、そういうアイテムがございまして、大山のほうにもやってこられて参戦されていらっしやいます。

この秋にも、同じ大会を開催をすることにしております。これやってみて驚いたんですが、2日間で4万人、全くないところから始まったイベントであります、バーガー食べにやってくると、全国からやってくるということになりました。大山や蒜山といった、この圏域のイメージにもどうもぴったりくるようでございまして、是非こうしたグルメでタッグを組んでいくという関係をつくっていきたいなあと思います。可能であれば、石井知事に是非ご指導もいただいて、グルメとしての同盟関係を岡山、鳥取両県で結べればいなというふうに考えております。B級グルメの聖地、ただB級という言葉以上に、これA級の内容でございまして、グルメとしての同盟関係を結ばさせていただきまして、全国や海外にも積極的に共同でアピールをしていくということが可能ではないかと考えております。

○石井知事 ありがとうございます。

ご当地グルメ同盟の提案ということでございまして、私も全く同感でございます。大いに賛同させていただきたいと思います。そういう趣旨から、事務局のほうで一応ご当地グルメ同盟ということで、その宣言文を用意をしてもらっているようでございます。事務局のほうから説明を願います。

○三宅局長 宣言文案文は、皆様のお席にもご用意させていただいております。

岡山・鳥取ご当地グルメ同盟宣言。

岡山県と鳥取県は、ともに中国山地を源とする豊かな水が大地を潤し美しい海をつくり出す中、そこで育まれた食材とその地域ならではの歴史・文化を背景に、地元で愛され続けてきたご当地グルメがあります。

このご当地グルメの魅力により、両県の地域づくりや観光振興をさらに推進するため、ここに岡山・鳥取ご当地グルメ同盟を結成し、美味しく楽しく未来に向けて連携して取り組むことを宣言します。

平成24年5月16日、岡山県知事、鳥取県知事。

○石井知事 ありがとうございます。

この宣言文で平井知事さんどうでしょうか。

○平井知事 はい。全く異存ございません。是非、同盟、アライアンスを結び、世界に岡山、鳥取の食を売り込んでいければと思います。よろしくお願いします。

○石井知事 売り込んでいきましょう。

それで具体的には、私考えますに、1つは今申し上げたように、両県でグルメイベントがありますので、そこで相互にお互いに出展をしていくということです。そして、それぞれがご当地グルメをその際PRをしていくということをこれによって確認したいと思います。それから、ネットワークは岡山県にも10団体ありますが、鳥取県さんもそういうグルメの団体の9団体の皆さんが集まってらっしゃると聞いてますから、お互いに団体同士が相互交流をしていくということを両県で支援をしたいと思います。それから、紙面交換ということで、お互いグルメのパンフレットを今日も用意してるんですけども、この中に自分の県だけではなくて、岡山県の場合は鳥取県さんのおいしいグルメと一緒に紹介をするなど、お互いに紙面交換をしてグルメをPRすることなど、この同盟に沿って具体的な事業を展開していきたいと思いますので、またよろしくご協力をお願いいたしたいと思います。

○平井知事 是非、そういう相互にPRをしたり、それからネットワークの団体ができてますので、交流してノウハウを交換したり、できれば共同のイベントなんかもあってもいいと思うんです。グルメ同盟の地域として、雄大な自然もありまして、食のおいしさをアピールするにはもってこいのところではないかというふうに考えておりますので、是非実りの多い同盟になりますように力を発揮していきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

【ガイナレ鳥取対ファジアーノ岡山戦】

○石井知事 どうもありがとうございました。

それでは、またこれに関連して、今度はスポーツの面からの交流ということで提案いたしたいと思いますが、両県にはJリーグにおける交流というものが挙げられようかというふうに思っております。このJリーグの交流につきましては、2011シーズンから中四国のJ2クラブが、中四国4クラブがあるわけなんですけども、そのバトルを協力して盛り上げていこうと、こういうことで、「PIEDE OF 中四国」という名称とロゴマークが決定されているわけであります。

昨シーズンは、たくさんのサポーターがアウェイの観戦に訪れて、大変盛り上がったところでありまして、例えば私たち岡山県のほうが、鳥取のとりぎんバードスタジアムにお邪魔をしたときには、私どものほうから観光PRもさせていただきながら、ちょうど9月だったもんですから、岡山県産ピオーネとかマスカットなどのブドウの試食をさせていただき、もちろん鳥取県さんからは二十世紀ナシの試食というようなことがあったり、お互い若者の交流事業で、うらじゃおどりを我々披露したといったような記憶がありまして、近年こういったものを連携モデル事業とし

て、我々も近県と連携した交流事業を予算面でも応援をしてきております。こういったような交流が、さらにこれからも活発に展開できますように、両県で連携をして行っていきたいというふうに考えております。

私ども、岡山県はファジアーノ岡山ということで、今シーズンはスタートダッシュが非常に好調でございまして、期待しているのですが、お互いに連携をしてスポーツの交流を通じた観光交流、地域の活性化を目指していきたいと、このように思いますので、ご提案いたしたいと思います。

○平井知事 石井知事から、本当に力強いご提案をいただきました。是非ファジアーノとガイナーレとの一戦を伝統の一戦として、これからもっと発展させていければと思います。陰陽ダービーという言葉もついておりますが、本当に多くのサポーターの方が鳥取のほうへも来られますし、鳥取から岡山のほうにも行かれるという、そういう大切な試合になってきました。

4月は2対0でファジアーノ岡山が制されましたけれど、8月12日は迎え撃たせていただきたいと思います。ファジアーノさんは、今はもう7位で、プレーオフは射程に入っておられまして、是非ご活躍お祈りしたいなと思います。ガイナーレ鳥取は、ちょっと最下位までいったこともあったんですけども、この間勝ちまして、それもホーリーホックを破ってございますので、岡山のためにやっているようなこととございますが、16位に上がったということになりまして、これから上を目指していこうと思っております。ちょうど8月12日ごろは、ちょうど盛り上がっている時期じゃないかなと思いますので、是非さまざま産物のPRだとか両地域の交流の場になるような、そんな熱気あふれる、そして温かみのある、そういうイベントに我々としても協力してやっていきたいと思っております。

先ほどの食べ物の話もございましたけれども、岡山の食べ物、本当にとっても人気でございまして、県の中部では食のみやこフェスタというのをやるんですが、前回やったとき、そこで一番売れたのはひるぜん焼そばだったです。地元産がいっぱい出てるんですけども、やっぱり食べてみたいというのは結構鳥取側にも多くありますので、是非岡山側からも出展していただいたりして、陰陽ダービーを相互に楽しめるようになればいいなと思います。よろしくお願い申し上げます。

○石井知事 ありがとうございます。

8月12日を楽しみにしております。ちなみに、白ネギの配布も大変好評だったということでございまして、鳥取産のおいしい食材でございます。

【両県イベントと広報紙交換】

○石井知事 それでは次、これに関連いたしまして、平井知事さんのほうからご提案があるというふうにお聞きしておりますが、国際まんが博のお話でございませうか。サミットですね。どうぞお願いします。

○平井知事 国際まんがサミットにつきましては、8月4日から開幕をしまして、11月25日まで開催をされることとなります。これもさまざまなイベントが中に入っております、一番メインになるのは国際まんがサミット、これは世界中から漫画家が400人程度集まるというふうに言われております。なかなか日本でも開催されないんですが、大体5年に1遍ぐらい回ってくることでございますけども、このたびは鳥取県で行うことになりました。水木しげる先生あるいは「名探偵コナン」の青山剛昌先生、さらに海外で評価の高い谷口ジロー先生、さまざま漫画家の方が多く輩出をしているということがございます。それが海外の漫画家の方にも評価をされまして、是非行ってみたいと、そこでサミットの開催地として、日本で鳥取県が選ばれるということになりました。

このまんが王国とつとりの建国を飾るようなイベントでございますので、国際まんが博もあわせて行って、多くの方々に漫画テストやアニメテストを味わっていただくというふうに考えております。とつとりまんがワールドと銘打ちまして、8月4日から鳥取県の東部で開催をされるのを皮切りにしまして、中部、西部と鳥取県の中を横断をしていくイベントがございます。また、そのほかにも「エヴァンゲリオン」のレーシングチームがやってくるとか、またガンダムの関連イベントが行われるとか、やなせたかし展をやるだとか、さまざまなイベントがなされることとなります。

中には中華コスプレのアジア大会、あるいはアニカル祭りと言われますアニメソングのフェスティバルであるとか、最近では映画を創ろうということもございまして、「米子映画事変」という映画をガイナックスのプロデュースをされた赤井孝美先生がなされました。先ほどお話しただけでしたが、ファジアーノ戦で好評だったと言われますネギが鳥取県の西部のシンボルなんですけど、実はネギはネギマンという者に変身するようになっております。ネギマン。ウルトラマンをでっかくしたような、そのネギマンが最近米子を荒らし回っているという、そういう短編映画をつくっております、今度続編でマツエ・ジョーと対決をすることになってます。そのマツエ・ジョーというキャラクターをつくって対決することになってるんですが、そういう漫画、アニメテストをいろいろと楽しんでいただけるイベントになり始めておまして、是非岡山県の方々にも遊びに来ていただければありがたいと思います。

国際まんがサミットのときには、たくさんのブースも展開をするわけですが、岡山県も漫画の関連の博物館などもございますので、よろしければご出展をいただいたりして、我々も岡山の漫画も宣伝していきたいなあとというふうに考えております。世界中からお客様を呼び込む一つのチャンスになると思いますし、先ほど申し上げたチャーターフライトなども、これを目当てにして組もうかという動きになってきています。その際には、岡山側との共同での観光旅行商品の造成なども行われると思いますので、是非ご協力をいただければと思います。

○石井知事 ありがとうございます。

岡山県にも「がんばれ！！タブチくん」のいしいひさいちさんとか、あるいは「NARUTO」の岸本斉史さんとか、有名な漫画家がたくさんおられますので、是非連携してお互いに協力し合って、成功を応援させていただきたいと思います。

また、先ほどご説明した美作の国建国1,300年につきましては、岡山県も来年度県民文化祭、このメインフェスティバルを、あるいは岡山文化フォーラム、これを美作の地域で開催をするなど盛り上げていきたいと思いますが、今、平井知事さんからご提案いただきましたこのPRの件につきましては、お互い両県の広報紙の紙面交換を通じまして、岡山県民にも私ども、このまんがサミット、国際まんが博を大いに紹介しPRをさせていただきたいと思いますから、また私どもの美作の国建国1,300年の事業につきましても、鳥取県さんのほうでご協力をいただきますればと思っております。よろしく願いしたいと思います。

○平井知事 すばらしいイベントになるように期待をしております。これから話もあろうかと思いますが、道路がつながってくるなど、両県の一体性が強まってくる時に、美作の国1,300年の記念のイベントが行われるというのは、大変に嬉しいことだと思いますし、私たちも是非参加をさせていただきたいというぐらいの気持ちでございます。これから内容がだんだん決まってくると思いますけれども、我々のほうからもさまざまなご提案をさせていただければと思います。

広報紙もございますので、また記者クラブもそれぞれございますので、効果的なPRをお互いにやっていくようにご指導いただければと思います。例えば、広報を行う際も、プレミアムと言われるような若干ちょっとしたプレゼントを鳥取側、岡山側で用意をしながら、互いにPRをするというような手法も考えられるかなあと思います。従来以上に、これから大切な時期に入ってきますので、そういう広報上の連携も図らせていただければと思います。

○石井知事 ありがとうございます。

記者クラブの皆さんにもご協力をいただきながらPRをしていきたいと思っております。

(2) 道路整備の促進

○石井知事 それでは、第1のこの意見交換の項目はこれまでといたしまして、次の道路整備の促進という項目に入りたいと思います。この件につきまして、平井知事さんのほうからご発言をお願いいたしたいと思っております。

○平井知事 道路につきまして、ちょっと地図を用意をしてみましたが、岡山、鳥取両県を結ぶ高速道路のネットワークというものがございます。この会議でもたびたび議論になっておりましたけれども、北条湯原道路という、県北の中心

地とそれから鳥取県の中央部を結ぶ、岡山と鳥取を結ぶ道路でございますが、これが中国縦貫道や岡山道路、岡山米子道のネットワークと重なっていきますと、真つすぐ日本海へ抜ける道路になります。これにつきまして、石井知事の大変なご尽力で、初和下長田道路ですか、新しい道路が事業化をされるということになったと伺っております、大変に鳥取側も喜んでいらっしゃるでございます。

この道路であるとか、それから米子道、また岡山道、さらに鳥取道といったところの整備を是非進めて、両県のパイプを太くする必要があると思います。これにつきましては、鳥取道、現在鋭意工事中で、随分と形が見えてきたなあと思いますのは、下粟倉から大原にかけての間の8キロでございます。この進捗を是非図って、今年度中の開通を果たし、来年の美作の国建国1, 300年祭へとつなげていただきたいというふうに思っております。また、4車線化だとか交通の利便性の課題もでございます。是非、こうしたことをやっていただければありがたいなあと思います。

その意味で、両県で、後ほどご紹介あると思いますが、何らかのアピールを今日もまとめさせていただきまして、私たちとしての意思表示を国に対して強力にやっていければと思います。大分公共投資が絞られてくるのは、ある程度はやむを得ないとは思いますが、一番投資が必要なところには重点的に配分をするというのがあるべき姿ではないかなと思います。そういう意味で、建設行政にも非常に力を持っておられます石井知事のほうのご指導をいただきたいと思っております。

○石井知事 ご提案、全面的に賛成をさせていただきたいと思っております。姫路鳥取線につきまして、この24年度完成ということでございますけれども、是非とも一日も早い完成を要請をしたいというふうに思っております。また、岡山米子線の4車線化につきまして、やはり残っておりますところが、どうしても渋滞区間になりますし、また交通事故もここで起こっているという、重大な事故も発生しておりますので、是非安全性あるいは円滑な交通の確保ということから、暫定2車線を早期に4車線化にしていくように強く働きかけをしていきたいと思っております。また、北条湯原につきましては、懸案でございました我が蒜山の初和下長田間が整備区間に指定されたということでございまして、事業を円滑に進捗できますように、これも要請していきたいと思っておりますが、お手元にご提案いただきましたアピールにつきまして、案文をお示ししております。このアピール文で、平井知事さんよろしいですか。

○平井知事 是非、よろしくお願いを申し上げます。

○石井知事 それでは、このアピール文につきましては、両県におきまして地元関係の国会議員に対し説明をしながら、関係省庁への提案につきましては、我々事務方のほうに一任ということにさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いを申し上げます。ありがとうございました。

○平井知事 是非、鳥取道がもうすぐ全線開通します。美作の国の1, 300年もございますので、盛大にその全線開通、お祝いするように、岡山側の事業でございますので、鳥取県も協力してやりたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

○石井知事 もう大賛成です。是非、盛大に盛り上げていきたいと思います。

(3) 環境問題、地域振興

①ツキノワグマの保護管理対策における連携

○石井知事 それでは、次の3番目の大きな項目に移りたいと思います。環境問題、地域振興にかかわる問題であります。

細目がございますが、まず最初のツキノワグマの保護管理対策における連携という項目についてであります。この点、私のほうからお話をまずさせていただきたいと思います。

本県を含む東中国地域、これは鳥取県さんでいえば東部、本県も東部ということになります。それから、兵庫県さんでいえば北西部ということになるわけですが、ここに生息しておりますツキノワグマであります。これは、レッドデータブックにも絶滅のおそれのある地域個体群と、このように位置づけられております。本県では、12年度からツキノワグマの保護管理計画、これを作りまして、狩猟を禁止するなどの保護を進めてまいりましたが、鳥取県あるいは兵庫県におかれましても、同様に対策を進めてこられました。この結果、生息数自体回復をしてきているということなんです。これはこれとして、方向性としては目標達成ということに向かっているわけでありまして、しかしながら一方、近年人里に出没をいたしまして、住民の皆さんの精神的な被害というものが、本県におきまして問題となってきました。

このため本県では、本年度から、24年度からの新たな保護管理計画を策定いたしました。今回の計画では、県民の安全・安心、これを第一にして、地域個体群の安定的な維持を図ると、こういう目的としたわけでございます。その目的のもと、人里に執着するツキノワグマ、これにつきましては有害獣として殺処分することができると、こういうように方向性を打ち出したところでございます。そして、現地対策が重要でありますので、現地にマトリックス組織を新たに立ち上げると、こういうことで現場の対応力も強化をいたしました。そして、適切な保護管理のためのデータ、基礎データが必要でありますので、生息数の推定にも取り組むということにしているわけでございます。

そこで、連携が必要かということで、ご提案をいたしたいと思います。この地域の東中国地域全体のツキノワグマの地域個体群、これを適切に保護管理をしていくというためには、やはり兵庫県さんを含む3県の連携、それから足並みのそろった

対応というものが必要不可欠ではないかと思えます。これまで、鳥取県さんで開催される場合、あるいは本県で開催されますツキノワグマ対策の協議会等におきましては、お互いにオブザーバーを参加させるなどして情報の共有を図る、そして連携に努めてまいりましたけれども、私ども24年度から新たな保護管理計画を策定して実施することとなりましたので、被害防止に向けた対策とか、あるいは生息数の推定等におきまして、鳥取県さんのほうが先行的に取り組んでおられるところでありますので、是非それを参考にさせていただきながら、これまでの連携をさらにこれを強化をしていき、保護管理体制を、これを強化に努めていかなければいけないと考えておりますので、是非鳥取県さんのさらなる連携強化あるいは先行的に取り組んでいらっしゃいますので、その情報の提供、またさまざまな面でのご指導も仰ぎたいと思っておりますのでご提案をいたす次第でございます。よろしくお願いいたします。

○平井知事 これも是非、石井知事のご提案に従いまして、情報を共有をし、そして協力体制でこの問題に対処していくことを確認させていただきたいと思えます。

考えてみれば、これは岡山県も鳥取県も被害者のなところがございまして、もともとは兵庫にいたものがこっちのほうへやってくると。東中国エリアは割とそうございまして、最近では西のほうからも攻めてきて、島根、広島のカマがこちらのほうに入ってくる、これは西中国系なんですけども、それも若干入ってくると。特にやっぱり我々のところで多いのは、東中国系のところでございます。

これに対して、保護も片方で必要でございますので、レッドデータブックの話もございまして、教育放獣などの対策を3県でとってきているところでございますが、生息数が非常に増えてまいりました。鳥取県で調査をしますと、大体400程度いるかもしれないなど、240から400ぐらいというような、正直なところ割り出しをします。そうすると、かつての水準が既に回復をされてまして、安定的な水準に来ているということでございます。

実は、兵庫県側の調査もございまして、岡山県さんのデータがまだちょっとうまく入ってないんですが、両県だけでも、兵庫、鳥取だけでも800頭ぐらいというようなことになってきますと、やり方を変えてもいいだろうと。鳥取県から、殺処分も含めた体制、人里におりてきたときは殺処分を可とするような体制を新たに導入をさせていただきまして、これから慎重に生息数の管理だとか対策をとっていく必要があると思えます。微妙な案件でございますので、是非両県で共同してやっていくと、岡山県との関係でやっていくということをさせていただければありがたいなと思えます。

また、広葉樹林化だとか森づくりも大切でございまして、森の中にいてもらうようにしなきゃいけないというのもございますので、環境対策を共同で取り組むことで、ツキノワグマをいわば封じ込めるといいますか、エリアを分けていくと、人間の生息エリアといいますか、人間が住んでいるとこと、そういうことをやる必要があるのかなと思えます。

今年も、今のところ余り目立って出没をしておりませんが、散見されますけれども。ただ、実は鳥取県は、バス・ロケーション・システムみたいにバスに入れる無線みたいなものを入れて、クマがどう動いているかを調べておりますけれども、今年はどうも向こうはベビーブームのようでございまして、去年随分木の実がたくさんとれたもんですから、おいしいものいっぱい食べて子供が増えてると。今ごろは、子連れでどうも山の中を母親が歩き回っているらしいんです。非常にそういう意味では警戒心の強い時でございますので、やはり情報を共有してやっていく必要があるかなあと思います。

②有害鳥獣対策と利活用

○平井知事 このクマの問題もさることながら、有害鳥獣でいきますと、そのほかにもイノシシとかシカとか、そうしたものもございまして。これも両県またいで動いておりますので、この点でも協力関係結べないだろうかと思います。後ほど出てくる広域連合にもかかわるかもしれませんが、研修なんかをしっかりとやらないといけないです。ただ、そういう、いわば中心になり得る人材が限られています。そこを育てていく必要がありまして、これは全国的にも人材が限られているものですから、例えば研修を両県共同で行うとか、また両県でそれぞれで行うにしても、日をくっつけてやって、研修を効率的に回せるようにするとか、そんなことがあっていいんじゃないかなあというふうに思います。

また、鳥取県内でも、今シカとかイノシシの処理施設を急速に増やしております。それで、いわば災い転じて福となすと、おいしい食べ物として利活用して、いわば命を大切にしようという発想も必要ではないかと思っております。近ごろはジビエ料理という、フランスから渡来した料理がはやり始めてまして、鳥取県でもそういうシカ料理が始まっています。実は、県庁の食堂でもイノシシカレーとシカカレーが出ておまして、隠れた名物になっておりますけれども、そんなような取り組みを是非両県でも共同してやっていければなあというふうに思っておりますので、この辺もご配慮いただければと思います。

○石井知事 ありがとうございます。

次の話題を今ご提案いただいたわけでありまして、私ども確かに人材の育成ということは極めて重要だというふうに思っております。さまざまなセミナーとか養成講座を開催して、私どもも人材の確保、育成に力を入れておりますが、やはりこういった養成した指導者とかアドバイザーを例えば人材バンクとして登録をして、お互いに指導者の相互活用ができるような、そういう体制にするということは大変重要だと思います。是非、今のようなご提案を受けまして、課題の検討も含めまして調整をさせていただきたいと思っておりますし、また本県アライグマについての対策も考えていかなきゃいけないということで、幾つか被害出ておりますので、これはもう既に鳥取県さんが先行されていると聞いておりますから、ご協力、またご

指導いただきたいというふうに思っております。

それから、ジビエ料理についてのお話をいただきましたが、私どもも衛生管理のガイドラインを策定をして、安全な食肉としての流通を図っていこうというふうにしております。レストランにおいて、ジビエ料理を提供していただくところも徐々に増えてきております。また、家庭料理とか学校給食、こういったところに提供するなどの消費拡大に向けた取り組みも進めてきておりますが、やはりこれを普及していくためには、安定的な需要と供給体制の確立が前提であるということかと思っておりますので、効率的に捕獲する技術の確立とか、あるいは処理加工施設等の整備、これも行政側からも支援をしていきたいと思ひまして、鳥取県さんとの情報交換、共有に努めてまいりたいと思ひます。

これに関連して、実は本県は新しい取り組みをしておりますので、ご紹介したいと思ひますが、今までイノシシの食用としてのお話をいただいたんですけども、皮のほうは今まで廃棄されていると、その処理に困っておられるということをよく耳にするわけでありまして、私どもこのたびこれを皮革製品として商品化できないかということで、可能性調査に入りました。そこで、試作品をつくって、東京のビッグサイトで開催された見本市に出展をいたしましたところ、名刺入れとカードホルダーであります、これがメーカーさん、あるいはバイヤー等から大変高い評価を得たということでございまして、今後関係の地元とかメーカーさんと連携を図りながら本格的に商品開発して、中山間地域の新しい産業振興あるいは地域ブランド化に努めてまいりたいというふうに考えておりまして、実は私も以前からこのイノシシでつくった皮革製品でございまして、名刺入れ、活用させていただいております。1つ試供品がございまして、ご提供申し上げます。

○平井知事　そうですか。どうもありがとうございます。すばらしい。

○石井知事　ご利用、ご活用願ひします。
どうもありがとうございました。

③再生可能エネルギーの可能性の検討

○石井知事　それでは、これに関連いたしまして、3つ目の今日の議題でございまして、再生可能エネルギーの活用性の検討ということで、平井知事さんのほうからご提案があると聞いておりますので、願ひいたします。

○平井知事　再生可能エネルギーにつきましては、石井知事が会長県になられまして、自然エネルギーの利活用をしようじゃないかという協議会が全国でも発足をしています。特に、そのメッカとなる可能性が岡山、鳥取両県の地域には高く存在していると思ひます。太陽光発電であるとか風力発電、さらに小水力発電など、さまざまな賦存量があります。地熱的なものについても、調査をしてみますと、岡山、

鳥取の県境ぐらいが中国地域では唯一賦存量があるというふうに言われてまして、バイナリー発電と言われるような、比較的溫度が低くても発電に供することができる技術も生まれています。

ただ、いろんな規制があったり、それから隘路もあるわけでございまして、この辺を共同で検討したり、それから国に対して規制緩和を呼びかけたり、例えば小水力発電なんかをやろうとしますと水利権の問題がたちまち出てきたり、それから農林水産省のほうの補助制度が邪魔になったり、いろんなことが出てきます。太陽光発電なんかも、やはりそうした規制緩和が必要な地域というのが多数ございますし、そういうことを考えますと、これから新しい原子力エネルギーにかわるような再生可能エネルギーをリードしていこうと思えば、私ども岡山、鳥取両県こそリーダーシップをとって、この分野で切り込んでいってはいかがだろうかというふうに考えております。石井知事も、かねて主張されておられるとこでございまして、是非そうした体制を組んでいただければと思います。

○石井知事 ありがとうございます。

今、平井知事さんのご指摘のとおり、自然エネルギーの普及拡大というものは、是非両県取り組んで、お互い連携して取り組んでいきたいと、このように考えております。

本県では、新エネルギービジョンというものを昨年の3月に策定いたしまして、4項目を重点分野としておりまして、1つは太陽光発電、これは晴れの国おかやまと、こう言っているわけなんですけども、2つ目が小水力の発電です。3つ目が木質バイオマス。それから4つ目が岡山県で製造しております電気自動車、この普及と技術開発。この3つを重点的な分野として取り組んでおります。

うち、メガソーラーにつきましては、岡山県、1メガワット当たり2,000万円、候補地についてはでありますけども、こういったような独自の民間事業者に設置経費を一部補助する制度も、全国に先駆けて打ち出したということでございます。今般、自然エネルギー全体につきましては、ご案内のとおり固定価格買い取り制度、これがようやく動き出したということでございまして、鳥取県さんも非常に先進的に取り組んでおられますが、本県でもメガソーラーが動き出しておりまして、笠岡でこの間発表しましたが、また第二弾、第三弾も今現在中国電力さんと接続の協議をしている状況でございますが、ご指摘のとおり、まだまだ規制緩和の問題が数多く残ってますし、それから電力会社との接続の問題もございます。

それから、小水力発電につきましても、まだまだ例えば水利権手続の簡素化の問題とか、それから電気事業における電気主任技術者の設置、こういったものなど非常に厳しい法令を適用されますと、なかなかこれが進んでいかないということになりますので、こういった今個々の問題点を洗い出しをしておりますので、自然エネルギー協議会全体としても、国に対してさらなるそういった規制緩和とか電気事業者の協力体制とか、さまざまなものを提案をしていきたいというふうに思っており

ます。さらに、両県連携しながら、こういう問題点を掘り下げまして、自然エネルギーの普及拡大に向けて、さらに強力に取り組んでいきたいと思っておりますので、ご提案しっかり受けとめさせていただきたいと思っております。まことにありがとうございました。

(4) 地方分権改革

①国の出先機関改革について

○石井知事 それでは続きまして、最後の4番目の地方分権改革、このテーマに行きたいと思っております。

まず、このテーマでございますが、最初は出先機関改革についての問題でございますが、これは冒頭ご挨拶の中にもいただきました。平井知事さんのほうからお話をいただきたいと思っております。

○平井知事 この点、石井知事も先ほどコメントをご挨拶の中でされておられました。せっかくイノシシの名刺入れを持ちましたので、猪突猛進、頑張っってやってまいりたいと思っております。突破口をやっぱり開かなきゃいけないと思うんです。折しも、ちょうど今国のほうでも、大規模な権限移譲を議論するアクションプランの会議も開かれてきております。ただ、どうも仄聞しますと、国のほうの議論は行きつ戻りつのところがあるようでございまして、各省庁の思惑も絡んでいるわけでありまして。

だからこそ、我々地方側でもこういうことができるぞと、こういうような受け皿をちゃんと作るよという明確な行動を起こす時期に来ていると思っております。そういう意味で、かねて石井知事からもご発言があるわけでございますけれども、例えば道州制というのは今後議論の課題になるというのももちろんのことでありまして、まずは中国5県で連携をとって前に進むとすれば、やはり広域連合という仕組みを真剣に考えて、我々としては設立を打ち出していくと、そういうタイミングが来たんじゃないかというふうに思います。

この点について、広域的な防災関係やあるいは医療、救急の関係など、広域でお互いの仕事を持ち寄るベースはあろうかと思っております。また、試験だとか研修だとか、そうした事業を一つ一つの県では規模は小さくなりますが、5県でまとまってやるというものもあろうかと思っております。例えば、看護教員の育成とか、そういうような分野になりますと、単県でやっていくのはもうできなくなってきてまして、国はそこを撤退しているというものもあります。だけど必要だというものもあるわけですね。また、試験なんかも、そういう看護関係の試験もございまして、いろいろとございまして、共同でやるほうが手っ取り早いというものもあろうかと思っております。

こうやって考えていきますと、持ち寄っていける可能性のある仕事というのはあるわけでありまして、広域連合という共同組織をまずは立ち上げる。それを立ち上げると、今国のほうで法案の骨子を議論しておられますけれども、そういう広域連

合に対して指定をして、国からの権限移譲の受け皿とすることを明記しようとしています。中国地方は、今までいろんないきさつもございまして、なかなかそういう広域的な行政組織まで動いてきておりませんでしたけれども、ここは岡山県の会長県としてリーダーシップもございましょうし、私どもも鳥取県としても関西広域連合の経験も生まれておりますので、そういう経験を生かして、新しい枠組みづくりには是非協力をしていきたいと思っております。石井知事のお力もいただいて、是非猪突猛進、前に進むようになればいいというふうに思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

○石井知事 大変前向きな力強いご発言をいただきまして、まことにありがとうございますございました。

私も、地方分権改革の推進というものは、これからの日本のグランドデザインを考える際に、最も重要なことであるというふうに考えているところでありますが、分権改革を進めていくさまざまな課題がまだまだ残っております。究極の地方分権改革として、私も道州制の議論を国民的な議論として推進していきたいという思いは持っているわけですが、今の現在の政権になって、地域主権改革は一丁目一番地とおっしゃったので、非常に期待をしていたのですが、どうも一丁目一番地から本当にほんの少ししか進んでいるものが（なくて）、目ぼしいものがなくて、このままですと番外地になってしまうのではないかというような懸念を覚えるわけですが、いずれにいたしましても、今平井知事さんのおっしゃられたことは、まことに私も同じ思いでございまして、と申しますのも、国の出先機関の原則廃止、これを念頭に置かれましての法制度、今用意をされているということ、大いに私もこれは期待をしております。ただ、現在示されております案は、今日も一部報道に載っておりますけれども、どうも所管大臣のさまざまな権限を、すなわち国の関与が随分残っているということが非常に気になる、これはもう対象を限定して最小限度にしてもらわなきゃいけないという思いもありますし、また法定受託事務、これも原則的にそうだと言われても、道路、河川は今法定受託になっておりますから、その延長はわかるんですけども、新たに移譲してもらわなければならない、そういう事務が、同じように同列だと言われることについても違和感を感じます。

また、一番大事なのは財源なんです。財源をちゃんと担保しますということを言っていたかかないと、我々受けとめる側もまた、市町村が特に非常に心配されると思うんです。この点が非常に明確なものが出てないことに、そういうことには問題があるとは思いますが、ただお話のとおり、国がそういう制度をつくって、渡しましょうと、移譲しましょうという方針を出したということであれば、我々受けとめる側としては、受け皿づくりをしっかりと用意をしていくということ、これが1歩でも2歩でも分権改革が前に進んでいくということにつながっていくと思っておりますので、是非次の中国地方知事会におきましては、今の平井知事さんのご発言に沿って、なるべく多くの移譲を受ける事務が共通の認識になるように、私も会長県と

して取りまとめを行っていききたいというふうに思っております。いろいろ部長レベルで会議をしていただいて、検討材料もそろっているようでございますから、それをもとに是非協議を調べていききたいと思っておりますので、平井知事さんの格段のご協力を是非お願いをいたしたいと思っております。

②大規模広域的災害に係る広域支援について

③地方税財源の充実確保について

○石井知事 それでは、これに関連いたしまして、次は大規模な広域的災害に係る広域的な支援ということについてであります。

これについてでございますが、私のほうから発言をさせていただきたいと思いません。

大規模広域的災害が発生して、被災県独自では十分な応急措置が実施できない、こういった場合の支援体制等については、先般中国5県の広域支援に関する協定というものが締結されました。それで、鳥取県さんが被災された場合には、岡山県が第1順位での支援担当県、それから岡山県が被災をした場合においては、鳥取県さんが第2順位での支援担当県となっただくということになっております。

そこで、初動対応が重要でありますので、十分スピード感を持って対応していくためにも、十分に事前の体制を整えていくということが重要かというふうに思います。そこで、支援県と被支援県間の顔の見える環境を築いていくというためにも、広域支援協定に基づきます防災訓練への相互参加、これを是非やっていきたいと思っております。それから、平時から各県を訪問して、防災担当職員のお互いの交流を図るといったこと、従来にも増して相互の支援関係を強化をしていきたいと考えておりますので、その点是非確認をさせていただきたいと思っておりますが、いかがでございましょうか。

○平井知事 石井知事のほうから、本当に温かいお言葉をいただきまして、感謝を申し上げたいと思っております。やはり、命、財産を守るというのは、私たち行政にとっての使命だと思っております。そのために、防災体制を広域的に協力をしていくということは重要でございまして、鳥取県としても、第2順位ではありますが岡山県側の支援、しっかりと日ごろから準備を図っていく必要があると思っております。

やはり、急に支援に回れと言っても難しいことございまして、例えばヘリコプターであれば、習熟していないと地形がわからずにうまく飛ばません。二次災害につながることも考えられなくもありません。また、どういように地形があるとか、どういう人間がカウンターパートにいるとか、そうした意味で顔が見える関係をつくっていくことも大切であります。

そういう意味で、今石井知事からお話をいただきました防災訓練への共同参加、是非お願いを申し上げたいなと思っております。私どもでは、実は境港で10月に予定をしている訓練がございませけれども、岡山県からのご出席も賜ればありがたいなと

思います。境港は、実は津波の想定も考えるところでありまして、それから原子力災害も20キロ圏内に入ってくる市でございます。そういう意味で、非常に今回は濃厚な訓練がなされるかと思いますが、岡山の皆さんにも、それをごらんいただいたり、体験していただいたり、また我々の訓練の中に、岡山県さんも是非入っていただいて、共同での訓練になればありがたいなあと考えております。

広域的な防災でいいますと、原子力災害については、岡山県の是非ともご支援とご協力をいただきたいと思います。これは、溝口知事がかねておっしゃってまして、鳥取県としても共同でお願いをさせていただいております。それから、いざ事が起こったときに、人形峠に人的リソースや施設もございます。例えば、スクリーニングをやるなどのことが必要になります。そうした万が一のときに備えての人材育成だとか、そのときのご協力だとか、そうしたことも今後おいおい協議をさせていただければありがたいなあと考えておりますので、よろしくお願いを申し上げたいと思います。

○平井知事 さらに、広域関係であわせて言えば、地方分権での税財政対策が必要だとお話ございました。ついでに付言をさせていただきたいと思います。

今、消費税の議論が活発に国会でようやく始まりました。だからこそ、地方を通じた税財政のあり方をこれから国民の皆様にも、県民の皆様にも理解し、ご議論いただく必要があるかと思っております。残念ながら、交付税は総額を抑制されている状況が続いておりますし、地方財政全体も臨時財政対策債という急場しのぎの赤字県債でしのいでいる状態であります。これは正常な状態ではございませんので、そうした消費税率の関係、地方消費税率の関係だとか、それに伴う交付税改革だとか、ここは正念場でありますので、両県でも、国に対する訴えかけをやっていく必要があると思っております。環境税の導入も課題になろうかと思っておりますけれども、一方的な国本位のことになってはいけないわけでありまして、先ほど来議論しておりますように、地方側に環境についての財政需要がございます。したがって、地方での環境税、自動車関係税の組みかえだとかも含めて、議論に供していく必要があると思っておりますので、これも地方税財政、分権のリード役をしていただいております石井知事のほうからも、ご支援とご協力をいただければと思います。

○石井知事 どうもありがとうございました。

今ご提案ございました境港市で予定されております防災フェスタにつきまして、私も当然職員も参加させていただきながら、県の防災ヘリコプター「きび」を一緒に参加ということで、緊急運航事案等に支障がない限り、そういう方向で今検討させていただきたいと思っております。

それから、人形峠の問題でございますが、同センターへの協力要請につきまして、鳥取県さんと一緒になりまして協議を進めてまいりたいというふうに思っております。

それから、地方税財源の充実強化についてのお話をいただきました。まことに私も同感でございます、地方交付税等のこういう必要額の総額確保を是非、これからも地方の安定的な財政運営のために強力に国に対して要請をしていかなければなりません。臨時財政対策債による措置の解消も当然でございます。地方消費税、この消費税を含む税の一体改革の話が今国会のほうで一番大きな課題となっているわけですが、やはり国のほうでもっともっと徹底した行財政改革を行うということを前提にして、この議論が進んでいくべきものというふうに思っておりますが、いずれにいたしましてもまだまだ地方の財政さまざまな課題が残っているわけでございます、地方分権を推進していくという観点からも、さらに平井知事さんと連携して、国のほうに対して強く要請をしていきたいと考えております。まことにありがとうございました。

それでは、おおむね議題に沿っての意見交換は以上ということでございます。両県知事の意見交換はこれにて閉じさせていただきます。

○三宅局長 ありがとうございました。

4. 閉会

○三宅局長 それでは、以上をもちまして第4回岡山・鳥取両県知事会議を閉会とさせていただきます。

記者会見

恐縮ですが、引き続きこの場で記者会見をさせていただきたいと存じます。

ご質問のおありの記者の方は、マイクをお持ちいたしますので、挙手をお願いいたします。社名と、それからお名前、それからどちらの知事へのご質問かを言っていただいた後に、ご質問のほうをお願いをしたいと思います。

それでは、どうぞお願いいたします。

○植田 氏（共同通信社） すみません。共同通信社岡山支局の植田と申します。よろしく申し上げます。

今日、ご当地グルメ同盟を結ばれたということなんですけれども、会議でも話があったのですが、この同盟を通じて、それぞれ両県どういうふうにこの同盟を活用していきたいかというところを両知事に伺えればありがたいです。

○石井知事 ご当地グルメ同盟の宣言に基づきまして、私ども県内でグルメのイベントを行う際には、是非とも鳥取県さんのグルメ団体の皆さんにもご参加いただくといったこと、お互いに相互出展ということです。そして、お互いにグルメをPRをしていくということ協力を合していきたいというふうに思います。そのために

も、お互いに団体があるんです。私どもではB級グルメまちづくりネットワークという団体名となっております。鳥取県さんに伺いますと、とっとりご当地グルメコミュニケーションということでまとまって9団体がおありになると聞いておりますから、お互いに交流をしていくということ、相互交流も大切だと思いますから、これは両県の観光部局で支援をさせていただきたいと思います。

それから、今日も岡山県のご当地グルメ、こういうものがありますということをおパンフレットをつくっておりますけども、このグルメのパンフレットの中に、鳥取県さんのご当地グルメがこういうものがあるんですよということをお紙面の中に掲載をさせていただきまして、相互のPR、グルメのPRをしたい、こういうようなことでお互いに相互に盛り上げを図っていききたいというふうに思っております。

○平井知事 今やはり時代の関心です。安全で安心そしておいしいもの、しかもワンコインか1,000円くらいか、比較的リーズナブルに人生楽しんでみたいな、そんなテーマに食が急浮上していると思うんです。岡山、鳥取両県の地域というのは、農林水産物、本当においしいものがいっぱいありますし、食文化も掘り起こしてみますと、大変におもしろい食文化、それでいて余り全国にこれまで知られてなかったなあというような食文化がいっぱいあります。その特性を生かして、岡山県と鳥取県とでグルメ同盟を結んで、ヨーロッパのハンザ同盟ではございませんけども、我々も連合してこうして頑張るって食文化を盛り上げて、またご当地のいろんな食材を振興していこうということで誓いを立てたというのが今日の段階だと思います。

今、石井知事からお話がございましたように、相互でのPRを行うことも一緒になってやっていきたいと思っておりますし、両県で核になりまして、こういうご当地グルメのすばらしさ、これを全国や世界に向けて発信をしていきたいというふうに思います。観光に訪れる方々が周遊をされると、ひるぜん焼そばを食べる、あるいは大山のバーガーを食べられる、そうやってめぐり歩いていただいて満喫してもらうという旅がこれからあるだろうと思うんです。そういうことを両県共同で作り出していく、そんなご当地グルメ同盟だと考えております。

○三宅局長 ほかの方はいかがでしょうか。

はい、どうぞ。

○井上氏（日本海新聞） すみません。日本海新聞の井上と申します。

両県知事に伺いたいのですが、今日国の出先機関改革についてのお話の中で、平井知事からご提案があったのですが、中国地方の広域連合をつくってはどうかというご提案だったと思います。次回の中国ブロック知事会で提案されることになるかと思うのですが、この提案の形は鳥取、岡山両県での提案とい

う形になるのかということが1点。もう一つは、広域連合をいつまでにつくりたいという、そういった目標があれば、そこまでお聞かせいただければと思います。

○石井知事 それでは、会長県としてお答えいたしたいと思いますが、今日の平井知事さんも非常に前向きで、私も同じように考えておりますから、その方針に沿って、当日具体的に提案をさせていただきたいと思っております。広域連合の設立をいたしたいということ、そしてその場合の移譲対象の機関です。国のほうでは3機関が対象になっておりますから、そのうちどの機関を対象にしていくのか。それから、持ち寄り事務です。広域連合をつくる際には、お互いに共通の処理する事務というものを決める必要がありますので、例えば広域防災が今日議論になりましたが、こういったものなど、それを具体化していきたいというふうに思います。

そして、一番大事なのは時期です。国のほうの動向、動きもしっかりと注視をする必要がありますけれども、私としてはできるだけ具体的に、いつごろまでに設立をいたしたいということの方向性をその場で協議して、同意をいただきたいというように思っております。と申しますのも、やはり内容が非常に大きいものですから、各県の議会の当然議決が必要でございます。そのため、十分な事前協議も必要かと思っておりますので、そういったことも念頭に置きながら、それでも具体的な設立の時期をこういう時期にやりたいという明確に打ち出すことができればという思いで会議に臨んでいきたいと思っております。

○司会 平井知事さんにはよろしいでしょうか。

ほかの方はいかがでしょうか。

どうぞ。

○阿部 氏（日経新聞） 日経新聞の阿部と申します。

地方分権改革、これから一致して連携して進めていかれるということだと思っておりますけれども、やっぱり道州制に関しては、先般石井知事が発起人となって市長連合……。

○石井知事 推進連合。

○阿部 氏（日経新聞） 推進連合、すみません、立ち上げたと思うんですけども、これに関して平井知事のほうは、行動をともにするのは時期尚早だというふうに発言されているというふうに聞いています。道州制に関して温度差があるのかなと思うんですけども、改めてそれに対するご見解を両知事にお伺いします。

○石井知事 私はもう推進連合を設立をして、共同代表に就任しておりますから、もう今こそ国の形を大きく変えていく、こういう議論を進めていく時期に今来てい

るというふうに思っております。この国のあり方も考えていかなきゃいけないという思いの中で、今こそという思いで同志にご参加いただいたということでございますので、皆さんと一緒になって運動をこれから展開していきたいという思いでございます。

○平井知事 今回、石井知事のほうで全国的な推進の動きをとられたことは、私は評価いたしております。いろんな意見が、やはりこれからのこの国のあり方、国と地方のあり方について起きてこなければいけない時期だと思います。橋下さんがやっておられるような船中八策を模したような政策提言も出てきているわけですが、我々もみんな考えていかなければ、日本はどうなるかという思いでいっぱいあります。

私が、記者会見のときの発言だと思いますけども、そういうふうに申し上げましたのは、今の、今日も権限移譲で国のほうで議論がなされていて、新聞などの報道が出始めていますけども、私は国のほうが地方分権あるいはこの国のあり方を変えることについて、特に霞ヶ関が消極的だと映ってならないわけでありまして、そうなりますと、都道府県が区域を一つにしまして、それで新しい行政機構をつくらうということになったとして、それが国のほうからの大きな権限分配といいますか、この国にももう一度連邦国家のように建て直していくと、そうして道州をつくっていくということであれば意味があると思うんですけども、どうも今の国の動きについて、そこはやや危険を感じざるを得ない、残念な国の状況があると思います。そういう政府の状況を見ておりますと、道州制を導入をするということで決めた後で、結果として中央集権が都道府県のレベルまでおりてきてしまうと。国直轄の道州というものができ上がったのでは意味がないということになるかと思っております。

だから、まだまだ議論を整理をしたり、それから憲法的な議論も含めてこの国のあり方の議論もしっかりとやる必要があるだろうと思っております。道州制の議論自体を否定するということではなくて、今直ちに道州制導入だということで決めてしまって、国のほうの権限移譲なりこの国の統治機構との関係で、引き出せるものが引き出されなかったときにどうなるんだろうかなあという不安があるということでありまして、したがって、今私がその会に参加するかどうかということでは、まだ時期が早いのではないかとこのように申し上げたところでございます。

○三宅局長 そろそろお時間の関係で、もうあとお一方、どなたかございましたらお願いを申し上げます。

○(NHK) NHKです。

先ほどの防災の関係で、平井知事からスクリーニング、人形峠の活用をという話がありましたが、もうちょっと具体的なイメージと、あとそれと、こういう活用に関して石井知事のご見解もいただければと思ったんですが。

○平井知事　じゃあ、ちょっと先に発言したほうから申し上げたほうがいいかもしれません。

今、私どものほうで原子力安全対策として、初めて島根県が毎年というか、定期的にされているものがございすけども、それに周辺地域の自治体として、全国で初めてなんですけど、オフサイトセンターに鳥取県が入り、共同のいわばヘッドクォーターをつくりまして訓練をするということをいたしました。このときに、鳥取県内でも、島根原発の万が一の事故を想定して、こういうことがあるだろうという訓練をします。例えば、スクリーニングをすると。避難をされてこられる方々を仕分けをしまして、放射能の汚染がないですってということで、次の避難体制へ入っていただく。もしそうでなければ除染をするということになります。こういうのを例えば県内で8万人とか、そういう人についてやっていくことになるわけですが、なかなか人材の面でも機材の面でも厄介なことがあります。

幸いと言っていいかどうかですが、実は島根県には島根原発がありますけれども、岡山県さんの人形峠のサイトの関係もありまして、鳥取県でも隣接の三朝町の関係がありまして、ある程度の機材などをそろえてきたことはありますけれども、正直十分でございせん。これから、そうした人形峠のいろんな人的、物的な資源も、万が一のときの避難対策だとか、あるいはそのような計測が必要だとか、知見が必要だとかというような場面があるかと思えます。ですから、今後岡山県のそうしたサイトも、ご協力をいただくような形で、原子力安全のスキームをさらに前進させていくということができないだろうか、という投げかけを今日させていただいたところでございす。

石井知事のほうでも、原則として、基本的にはご協力いただけるというようなお話もございましたので、大変に今日は安堵しているという状況でございす。

○石井知事　平井知事さんのお話に尽きるわけなんですけれども、ご案内かと思いますが、岡山県のつくっております地域防災計画の、いわゆる原子力災害等対策編というのがあるんですけど、この中で、今お話しいただきました緊急被曝医療体制を構築するという中で、人形峠環境技術センターが現地救護医療班の中に、スクリーニング班を編成するというふうに防災計画の中で位置づけられております。したがって、同センターは緊急時のスクリーニングにかかわる資機材とか人材等、このノウハウを有しておられるわけです。したがって、その観点から平井知事さんからのご要請があったというふうに理解しておりますから、私ども平井知事さんと一緒に協議をして、同センターへ協力要請を行う、このようにいたしたいと考えております。

○三宅局長　それでは、以上をもちまして記者会見を終了とさせていただきます。本日はまことにありがとうございました。